

③劇「南風Ⅲ」台本

《CAST》

アキ……………KE
ケイタ……………HY
アキ父……………KJ
アキ母……………NA
同級生マイ……………NM
同級生アオイ……………YA
高友指導員……………YH
高友同級生①……………NM
高友同級生②……………SK
高友同級生③……………FT
サッカー仲間①……………TR
サッカー仲間②……………HY
高校の先生……………MS
事務職員①……………TM
事務職員②……………AM
現地スタッフ……………YY
アクア……………YA
アクア父……………ST
アクア母……………MM

アクア妹……………KY
主人……………MD
少年①……………SR
少年②……………SK
少年③……………SR
ボールボランティア……………HA
医者……………TS
ニュースキャスター……………NM

《STAFF》

演 出……………ST, TY
NM, MT
KK, KC
照 明……………NR, HA
MY
音 響……………SM, YH
映像・特殊編集……………TY, MN
YN

シーン①「4年前・出会い」

《アキ、自宅でパソコンメール作成中》

ナレーション・アキ ケイタへ 明日、私たちの記念日ということで、メールしてます。それにしても、あれからもう4年になるんだよ。何かウソみたい。覚えてる？4年前の明日、私はケイタと、修学旅行先のヒロシマで初めて会ったんだよ。あれからお互い、いろんなことがあったよね。…

(雑踏の音の中、パネル展示の間を歩きながら)

ケイタ よくすぐ分かったよねー？
アキ ですよねー。けど、何か…。
ケイタ そう！そうなんだよ。何か、ピンと来たんだよ。
アキ 私もです！

(少し間をおいて、パネルを見ながら)

アキ それにしても、原爆って、やっぱりひどいですね。
ケイタ うん。…あれからさ、
アキ あれからって？
ケイタ 去年、ひいじいちゃんから、シベリヤ抑留や満蒙開拓団の話聞いてから、オレいろいろ調べたんだ。戦争のこと。
アキ 私もなんです。
ケイタ アキも？
アキ うん。ヒロシマやナガサキの原爆のことだけじゃなくって、徳島の空襲や、日本全国の空襲のこと、オキナワのことや、アジアのことや、今も世界で起こっている戦争のことが、どうしても気になって。
ケイタ うん。そうなんだよ。遠い昔のことで済ませていいような気がしないんだ。
高校の先生 おい！澤口！お前一人こんなところで何やってんだ！単独行動はしないように言ってた

の、忘れたのか！しかも…、誰だ！この女子中学生は！

ケイタ あっ、いや、彼女は…。

(高校の先生の後を追うように登場)

サッカー仲間① あー、先生！どうしたんですか、大きい声なんか出しちゃって～！

高校の先生 いや、澤口が一人で勝手な行動して、他校生に声をかけてたんでな一。

サッカー仲間② まあまあ先生、そんな固いこと言わず、ここはそっとしといてやりましょうよ～。

サッカー仲間① そうですよ～！せっかくの修学旅行なんすから～、ここはひとつ…ねえ！

高校の先生 いや、そんなこと言っても、修学旅行中に、何か問題でも起きれば…。

サッカー仲間① そんな心配は必要ありませんて。ケイタはうちの学校のスターなんすよ(屁理屈をこねて、先生をステージから追いやる)

サッカー仲間② (ヒソヒソ声で)おい、ケイタ、ここはオレらにまかせて、早くどっか消えろよ！

ケイタ おう！サンキュー！アキちゃん、こっちこっち！

高校の先生 あっ！おい！こらっ！待てー！

(2人ステージ階段から降り、逆の階段から登ってくる)

(先生とサッカー仲間は舞台そでに消える)

アキ あー、ビックリしたー！

ケイタ なんとかうまくいったね！

アキ うん。…けど、あとでケイタさん、大丈夫なんですか？

ケイタ 大丈夫、大丈夫。こんなのどうってことないから。

アキ あっ、もうすぐ集合時間。

ケイタ もうそんな時間か…。あんまり、一緒にいられなかったね…。

アキ うん…けど私、今日、ケイタに会えて良かった。

ケイタ うん。あんまり、初めて会った感じしなかったけどさ(笑)。

アキ そうですね(笑)。また、帰ったらメールしてもいいですか？

ケイタ うん。オレもするよ。

アキ うん！

ケイタ じゃあ。

アキ じゃあ。あもう！また、…会えますか？

ケイタ うん。きっと、また会えるよ。

アキ うん！じゃ、バイバイ。

ケイタ じゃ、また。

ナレーション・アキ あの時は面白かったね。まだ中学生だったから、本当にビックリして、どうなるのかと思った。今思えば、幼かったな一。短い時間だったけど、すごく楽しかった。あのとき初めて会ったのに、初めて会ったような気がしなかった。もうずいぶん前から出会ってたような気がしてたんだ。あのころ、もしかすると、今の二人の人生は、決まっていたのかもしれないね。ケイタはケイタの道を歩いてて、それを感じたから、私も私の道歩くことを決めたような気がするんだ。

シーン② 「アキ・高校進路選択」

《アキ自宅にて》

アキ母 アキも、もう中学3年生なんやなあ。受験勉強せんとなあ。

アキ うん。

アキ母 進路はどないするん？どこか決めとんで？

アキ うん。

アキ母 どこ？

アキ うん…、看護科のある高校。

アキ母 へー、近くの北高ではないん？

アキ うん。人のためになることしたいな一と思って。

アキ母 ほんなわざわざ遠いところまで行かんでも、高校のうちは近くの普通科行って、ほれからでもええんちゃうん。ほれに看護師の仕事も大変だよ。

アキ うーん、ほなけど、早う看護師になってみたいんよ。
アキ父 まあ、資格持っとったら、いざというときに役に立つし、アキの決めた通りにしたらええんちゃうか。
アキ母 ほらまあなあ。
アキ父 いつからほんなこと考えとったんな？
アキ うん…、中2くらいからかなあ。
アキ父 ほんな前からか。
アキ うん。中1の時に、ひいばあちゃんから戦争の話聞いたでえ。ヒロシマの原爆の話や、ひいじいちゃんのお父さんが徳島大空襲で亡くなったっていう話。あれからいろんなこと考えよって、人の命助ける仕事したいなあーって思ったんよ。
アキ母 あの頃は、生きとうても生きれなかった人がようけおったけんなあ。
アキ父 父さんもよう聞かされたけど、ひいじいさんも、ひいばあさんも、ほら苦労したと思うわ。
アキ うん。ほなけん、一人でも人の命を救えたらと思うて。
アキ父 うん、ええこっちゃ。けどほの分、勉強もせなあかんぞ。
アキ母 ほんまじゃー、今のままでは行けんのんちゃうん。
アキ うん。ほなけん、勉強頑張る。
アキ父 うん、頑張れよ。
ナレーション・アキ けど、まさかケイタが高校卒業して、農業の専門学校に行くとは思わなかったよ。てっきり、サッカーで大学に行くと思ってたもん。それが、農業指導でアフリカに行くことになるなんて…。けど、そんな生き方ができるケイタのことが、すごく頼もしくもあり、うらやましかったんだー。

シーン③ 「ケイタ・平和ボランティア」

《平和活動ボランティアセンターにて》

ケイタ こんにちは。
事務職員① はい。こんにちは。
ケイタ あのー、澤口という者ですが。
事務職員① 澤口さん。今日はどういうご用件でしょうか？
ケイタ 突然で申し訳ないんですが、海外での平和活動ボランティアについて聞きたいんですが…。
事務職員① はい。海外での平和活動ボランティアについてですね。
ケイタ はい。先日、ガーナの子どもたちについての特集番組をテレビで見たんですけど、ちょっと興味があつて。
事務職員② ガーナですか。どんな内容でした？
ケイタ ガーナのカカオ豆を収穫してる子どもたちのなかには、カカオ豆がチョコレートになるってことを知らないって。
事務職員② ガーナの児童労働の件ですか。
事務職員① 澤口さんは、ガーナのことって、どんなこと知ってます？
ケイタ サッカーが強くて、ワールドカップに出てたこと…くらいですかね。
事務職員② うん…。日本が毎年、ガーナからカカオ豆をどのくらい輸入してるか、知ってますか？
ケイタ さあ…。
事務職員② 約70%です。
ケイタ 70%もですか！
事務職員② そうです。日本のほとんどのカカオ豆が、ガーナから輸入されているんです。それを私たちはチョコレートに加工して、おいしいと言って食べてる。けど、原産国であるガーナの子どもたちの口に入ることは、ほとんど無いんです。
ケイタ 作ってるのに食べられないんですか？
事務職員② はい。しかも、そのカカオ豆がチョコレートになるっていうことも知らなかったりするし、そもそもチョコレート自体を知らなかったりするんです。
ケイタ そんなに貧しいんですか？
事務職員① その貧しさの原因は、私たち日本人にもあるんですよ。

事務職員② アフリカのサハラ砂漠から南の地域の平均寿命は、今でも50歳くらいです。日本では80歳を越えていますよね。また、産まれた赤ちゃんの3人に1人は5歳まで生きられません。これは日本の約50倍の死亡率です。

ケイタ そんなに！？

事務職員② はい。子どもたちが死に至るには、いろんな理由があります。貧困、貧困による食糧不足や、劣悪な衛生環境、エイズ…それに内戦…つまり戦争ですね。戦争が、今の事態をより深刻化させているんです。

ケイタ どうして戦争になるんですか？

事務職員② 部族間の争いが多いんですが、その根っこにあるのは、先進国による地下資源の奪い合いと言われています。

ケイタ 地下資源ていうと、石油や石炭ですか？

事務職員① それもありますが、どちらかといえば今は、金や銀、ダイヤモンド…最近でいえば、レアメタルって言われるものなんです。

ケイタ レアメタル？

事務職員① そう。希少価値の高い金属で、それがパソコンやケータイの内部に必要な物として使われてるんです。

ケイタ それで先進国が欲しがるとは？

事務職員② そうです。これらは金になりますからね。先進国が利益を得るために、資源の奪い合いを、アフリカの人たちを使ってしてるようなものなんです。

ケイタ じゃあ昔、第二次世界大戦なんかで起こっていた戦争と同じ構図が、今はアフリカで起こっているということですか？

事務職員② そういうことになりますね。実は食料だけに関して言えば、今、世界の食糧は、すべての人類を満たすだけの量が生産できているんです。

ケイタなのに、どうしてアフリカは食糧不足なんかに…？

事務職員① これも、私たち先進国と言われるところに、世界の食糧の大半が集中していて、アフリカなど経済的に貧しい国々には行き渡ってないんです。

ケイタ 生まれるところは選べないのに…。

事務職員② そうです。でもこれが、今の世界の現実なんです。

ケイタ …何か、僕にできることはないでしょうか？

事務職員② ありますよ。

ケイタ 何ですか？

事務職員② たくさんあります。物を大切に使うこと。水や電気、もちろん食べ物もです。募金などの活動もそうです。けど、まずは、関心を持って生活することです。

ケイタ アフリカにですか？

事務職員② はい。生活のいろんな場面で、経済的に苦しい同い年の子どもたちを想像することです。まずそこからです。

ケイタ そうですか…。もっと、直接できることって、ないですか？

事務職員① 直接っていうと？

ケイタ アフリカに行くってことですか？

事務職員② (笑) 急ですねえー！

ケイタ 急じゃ、ダメですか？

事務職員② いや、そんなに急に言われてもねえ…。

事務職員① 澤口さんはおいくつですか？

ケイタ 今、高3です。

事務職員① 高3ではねえ…。

事務職員② 気持ちは嬉しいんですが、高校生だし、まだ未成年ですからねえ。

ケイタ そうですか…。

事務職員② でも、もし本当に将来何かをしたいというのなら、今から準備できることはありますよ。

ケイタ 何ですか？

事務職員② 例えば、高校を卒業したあと、アフリカの現地に行って貢献できることを学んでおいて、

そのあと年齢が来れば、現地に平和活動のボランティアとして行くんです。

ケイタ　　どんなことを学んでおけばいいんでしょうか？

事務職員①　それはいろいろですが…、例えば農業指導なんかはどうですか？カカオ豆のことに關心があるみたいですし。

ケイタ　　農業指導ですか…。

事務職員②　はい。今切羽詰まった問題としては、やはり食糧問題ですから…。私たちが全面的に澤口さんのサポートをさせていただきますよ。

ケイタ　　そうですか！ありがとうございます！

ナレーション・アキ・(途中から)ケイタ　初めは正直ビックリした。ビックリしたというより、本当は…悲しかったかな。だって、遠く離れちゃうんだもん。徳島と埼玉も遠いけど、アフリカなんて…。

もう二度と会えなくなっちゃうような気がしてた…。だから、この2年間、徳島まで会いに来てくれたのは、本当に夢のようだったんだよ。

シーン④ 「アキ・高校生友の会」

《高校生友の会にて》

ナレーション・ケイタ　アキへ　メールありがとう。明日でもう4年になるのか。もうそんなになるなんて、なんか信じられないよな。けどさ、今のオレの生き方の背中を押してくれたのは、アキなんだよ。オレ、今だから言うけど、徳島に行った時、アキが自分のことを言ってくれたことがあったじゃん。高校生友の会や部落のこと。あの時、自分も逃げないような生き方をしようって思ったんだ。アキが逃げずに生きて行くんなら、オレも同じような生き方をしたいって思ったんだ。

高友指導員　みんなは高校生になって初めての文化祭やけど、どう？ここの高校生友の会での活動を、高校で報告とかしてみいへんで？

高友同級生①　あー、うちの顧問が、狭山事件のコーナーを作ろうとか言ったわよ。なあ！

高友同級生③　ほういや言ったなあ。何か、資料になる物を探してこいとか言ったなあ。

高友同級生①　先生、何かないで？

高友指導員　ほうやなー、ないことはないけど、まずは自分らで探してみた方がええんちゃうで？

高友同級生③　ほらまあほうやけど、どこで探したらええんか分からんよ。

高友同級生②　ええでえ、まだほなあにやれるんやけん。うちの顧問や、おつてもおらんでも同じようなもんでよ。別に「何かしよう」とか言うわけでないし…。人権部や言うたって、集まっておしゃべりしながらお菓子食べて解散なんやけん。

高友指導員　う〜ん、まあ文句言っても仕方ないし、何かできることを考えてやれたらええんちゃうかなあ。いきなり大きいことはできんよ。

アキ　　先生、ずっと前に、「戦争は最大の人権侵害」って言ったよなあ。

高友指導員　ほんなこと言ったっけ？

アキ　　もうー！忘れっぽいんやけん！

高友指導員　ごめん、ごめん！まあほれはいつものことということで。ほんで、ほれがどしたん？

アキ　　戦争と人権がどうつながるとるんかっていうんを文化祭で展示するっていうんはどうだろう？

高友指導員　ほれもええわなあ。

高友同級生②　ほれでもええん？

高友指導員　ほらええんちゃうで。戦争が起きるんやっつてえ理由があるわけやけど、そこに生まれたくて生まれたわけではないわけやえ。ほれは部落差別と似とるわな。

高友同級生②　ほなけど先生、部落差別やほんまにまだあるんへ？

高友指導員　うーん、みんなには直接感じられんのかもしれんなあ。確かに昔に比べたら、あからさまな部落差別は減ったと思うんよ。ほれは教育とかのおかげやと思う。ほなけん、なくなったかのように思うんやけど、ほなほんまになくなったんかって言うたら、やっぱりほうではないと思うんよな。実際みんなの先輩のなかには、高校の友達や先輩から、部落に対する差別的な発言を聞いたるわけやえ。日ごろはまったく言うてええぐらい聞かれんのやけど、

いざというときには出てくる。ほれが、この部落差別の特徴やと思うよ。日ごろは感じられんけん、学習の必要性も感じられんようになっていきよんちやうかなー。

高友同級生② ほんなんでええん？

高友指導員 ええことはないからこそ、やっぱりほの必要性を、みんなが訴えていかなあかんのちやうかなあ。

アキ 先生、この夏休みにな、ケイタが徳島に来るんよ。

高友指導員 ケイタ？ケイタっていうたら…あの、例のメル友のケイタくん？

アキ うん。

高友同級生① わざわざ徳島まで来るん？

アキ うん。

高友同級生② すごいでえー！やるなあ、ケイタくん。

アキ けど私な、ケイタに部落のこと言うてないんよ。言わなあかんのんかなあ？

高友指導員 言わなあかんでいうもんじゃないんちやうで。言うかどうかはアキ次第やと思うし、言おうが言うまいが何も変わらんようにならなあかんのやと思うよ。けど、もしありのままの自分を受け入れてほしいと思うんなら、言うた方がいいんかもしれんなあ。

アキ うん…けど、引かれたらどうしよう？

高友同級生① ほんなんで引くような男は本物ちやうんじゃわよ。やめとき、やめとき！

高友指導員 ほれで諦めれるでー？

高友同級生① うん！ほんな男やこっちから願い下げじゃわよ！

アキ ほらほうなんやけど…。

高友同級生① アンタもしゃんとしいよ！

高友同級生③ オレ関係ないでえー！

シーン⑤ 「徳島・再会」

《空港にて》

アキ あー！こっち、こっちー！（手を振る）

ケイタ 久しぶりー。

アキ 久しぶりですー！あつ、こちらは友達のマイ。

同級生マイ こんにちは。

アキ それとアオイ。

同級生アオイ はじめまして。

ケイタ はじめましてじゃないでしょー！

アキ ほうよ。修学旅行の時に1回は会うとんじよ。

同級生アオイ あー、ほうかー。

同級生マイ ほなけど、2年前のことでえ。ほんなん覚えとるわけないわよー！

アキ ほらまあほうか。

ケイタ いや、けどマイちゃんやアオイちゃんのことは、いつもメールで聞いているから。

同級生マイ えー！アキ、何言よんよー！

アキ 別に大したこと書いてないってー！

同級生マイ うそー！もう、お嫁に行けんでえー！

同級生アオイ また、マイが大げさな…。

ケイタ で、これからどこに連れてってくれんの？

アキ どこ行きたい？

ケイタ オレに聞かれても、ムリっしょー！

アキ えー、どこに行く？

同級生マイ ほうやなあ…ほなまずは、阿波踊り会館でしょー。

同級生アオイ いやいや、まずはお腹すいとるけん、徳島ラーメンちやうで。

アキ ケイタ、お腹すいとる？

ケイタ まあ、若干。

同級生アオイ ほな決定な。どこ行くで？

同級生マイ まあとりあえず、駅前に行こか。

アキ ほれでいい？

ケイタ オレはいいよ。お任せやから。

同級生アオイ ほな、みんな行くぞー！

シーン⑥ 「徳島・夕暮れ」

《一旦舞台そでに消えたあと、再度2人出てきて夕暮れの町角》

アキ 2人とも変でしょー。

ケイタ いやいや、元気よくなっていいじゃん。…それにしても、やっぱ徳島は暑いや。

アキ そっかなあ。

ケイタ うん。陽射しが強い感じ。向こうはモワッと蒸し暑い感じだけど、こっちはジリジリ射すような感じだよ。

アキ へー、そうなんだー。

ケイタ 何か、夕陽の色も鮮やかでキレイ感じがする。

アキ ふーん。…でも、ホントにまた会えたんだね。

ケイタ 何だよ、急に。また会えるって言ったじゃん。

アキ ほらほうやけど…。

ケイタ アキ。

アキ ん？

ケイタ アキの家のお墓参り行けないかなあ？

アキ お墓参り？

ケイタ うん。

アキ ほら、近くやから行けんこともないけど…どうして？

ケイタ アキのひいおじいちゃん？やご先祖様に、あいさつしときたいんだ。

アキ あいさつって…。

ケイタ だって、アキとこうやって会えたのは、今まで命つないでくれたご先祖様のおかげじゃん。感謝しないと。

アキ …ケイタ、私ね…

ケイタ ん？…

アキ 私、…部落出身なんよ。

ケイタ ふーん。

アキ …ふーんて、分かってる？部落差別のこと。

ケイタ うーん、少しね。それで？

アキ それでって…別に何ともない？

ケイタ 別に。

アキ 何とも？

ケイタ 何とも。

アキ ホントに？

ケイタ うん。

アキ …あー良かったー！

ケイタ どうしたの。

アキ だって、これ言ったら引かれちゃうかもって、ずっと思ってたんだもん。

ケイタ オレがそんな男と思ってたわけ？

アキ そういふんじゃないけどー。

ケイタ まだまだオレ信用されてねえなー。

アキ そんなんじゃないよー。

ケイタ うそうそ。嬉しいよ。言ってくれて。オレにすれば、アキはアキなんだよ。部落？であることも含めて、それでもアキはアキなんだよ。だから、何も変わんない。じゃないと、ここまで会いに来ねえよ。

アキ うん。そっか…うれしい。

ケイタ …これ、何の香りかなあ？
アキ この花？
ケイタ うん。
アキ これはね、きっとクチナシの花。
ケイタ ふーん。
アキ 毎年この時期、暑くなって、南風が吹き出すと咲くの。
ケイタ あまいいい香り。
アキ 私も好き。この匂い。
ケイタ どこか南国のような感じがする。
アキ うん。
ケイタ オレ、徳島のこと好きだな。
アキ よかった。
ケイタ オレ、また来るよ。何度でも来るからさ、いろんなこと教えてよ。
アキ うん！

(「プラネタリウム：大塚愛」をBGMに)

ナレーション・ケイタ そんなアキの前向きな生き方に負けられないように、オレが自分の道をハッキリ決めたのが、去年だったんだ。オレはどうしてもアフリカに行って、自分のこの目で、今の世界の現実を見ておきたかったんだ。本やネットやテレビで見てるだけの自分が、逃げてるだけの卑怯者のように思えたんだ。どこか遠くから眺めてるだけの偽善者のように思えたんだ。アキから遠く離れるのは本当に辛かった。けど、アキならきっと分かってくれると信じてた。

あのころ、よく星空を眺めたんだ。この星空は、きっとどこかでつながってて、今見てる星を、アキもどこかで見てるんだって思ってた。それだけで、遠く離れててもつながってるような気がしたんだ。それさえあれば、どこでだって生きていけるって、そう信じてたんだ。

(飛行機の出発音)

シーン⑦ 「ケイタ・ガーナ到着」

《ガーナの空港からホストファミリーの家へ》

(空港到着ロビー雑踏の中、「Keita Sawagushi」を持った人)

ケイタ こんにちは！
現地スタッフ こんにちは！澤口ケイタさんですね。
ケイタ はい。
現地スタッフ 現地スタッフのジムといたします。よろしく申し上げます。
ケイタ 澤口です。よろしく申し上げます。
現地スタッフ どうぞ、こちらに車を用意しています。
(一旦舞台から消え、再び出てくる)
現地スタッフ ここが、澤口さんのホストになるお家です。こんにちはー！
アクア母 はい。
現地スタッフ 今、日本から到着した澤口さんです。
アクア母 それはそれは、長旅だったでしょう。
アクア父 とりあえず荷物を置いてゆっくりしてください。
アクア母 娘のアクアです。
アクア こんにちは。
ケイタ こんにちは。
アクア母 妹の()です。
アクア妹 こんにちは。
ケイタ こんにちは。
アクア父 澤口さんは／
ケイタ ケイタでいいですよ。ケイタと呼んでください。
アクア父 じゃあ、ケイタさん、農業指導のかたわら、子どもの労働について調査されると聞いてま

すが…。

ケイタ はい。日本が利益を上げて、経済的に豊かな暮らしをしている陰で、ガーナの子どもたちの労働があると／

アクア父 それじゃあ早速、現場を見に行きませんか。

現地スタッフ そんなに急がなくても／

ケイタ いや、行きましょう！

アクア・アクア妹 私も行くー！

現地スタッフア じゃあ、行きますか。

シーン⑧ 「ケイタ・児童労働」

《児童労働をさせている農場へ》

(現地スタッフ・ケイタ・アクア・父・妹は舞台脇から見る)

(農作業をする少年3人)

少年① 今日も暑いなあー。

少年② また暑くなってきたなあー。

少年③ 暑くて何も食べる気がしないよー。

少年① けど、食べないと体がもたないぞ。

主人 また何しゃべってんだ！休まずしっかり働け！

少年①②③ …はい。ご主人様。

主人 このあと畑仕事が終わったら、牛を放牧に連れて行くのと水汲みだ。早くしねえと、またメシが食べねえぞ！

少年①②③ …はい。ご主人様。

主人 それから、明日からはカカオの収穫だ。しっかり働けよ！

少年①②③ …はい。ご主人様。

アクア父 ケイタさん、うちの娘と同じ年くらいの子どもが、学校も行かせてもらえずに働かされてるんです。

ケイタ あの子たちの家族はどうしてるんですか？

アクア父 分かりません。いつも、どこからともなく連れてこられてるんです。

アクア たまにね、遊んだりするけど、みんないい子よ。

アクア父 同じ子どもを持つ親として、オレは見ちゃいられねえんです。

ナレーション・ケイタ アキ、この国には、どこからともなく連れてこられ、親から引き離されて働かされてる子どもたちがいる。子どもが労働力として、物のように売り買いされているんだ。いけないことと分かってて、それが野放しにされてるんだ。そしてまた、年に2度のカカオ豆の収穫の時期がやってくる。

ケイタ ねえ、アクアちゃん、あの子たちがカカオ豆を収穫してるところまで案内してくれないかなあ？

アクア どうして？

ケイタ 見てみたいんだ。カカオ豆の収穫がどんなのか。

アクア うん、いいよ。

(一旦舞台から消え、少年3人がカカオ豆を収穫して運ぶ場面)

(ケイタ・アクアは舞台脇で見ている)

少年② あっ、アクアじゃないか。

アクア ご主人様は？

少年③ 大丈夫。今は家に帰っていないよ。

アクア よかったー。(ごほごほ咳を続ける)

ケイタ ねえ、みんな。このカカオ豆はどうするの？

少年① アクア、誰？

アクア えーとね、日本でいう国から来てる農業の先生。

少年① ふーん。

少年② これはね、頭の上に乗せて運ぶんだよ。
ケイタ どこまで？
少年③ ご主人様の家まで。
ケイタ 重くないの？
少年① 重いよー！重いけど、持ってかなくちゃいけないんだ。
少年② カカオの時期は、一日中何度も運ぶんだ。
ケイタ この暑さの中？
少年② そんなの関係ないよ。
ケイタ 関係ないって…熱中症とかにはなんないの？
少年③ 熱中症って？
少年① 頭も膝も腰も痛くてたまんないよー。
ケイタ お医者さんには行かないの？
少年① そんなの無理だよ。
少年② ご主人様が行かしてくれるわけないよ。
少年③ それよりさ、日本のこと教えてよー！
ケイタ うーん、そうだなあー。みんな、このカカオ豆がどうなるのか知ってる？
少年①②③ さあ…？
ケイタ このカカオ豆はね、日本という国とかに送られてね、チョコレートっていうお菓子になるんだ。
少年① チョコレートって何？
ケイタ あまくておいしいお菓子なんだ。
少年② お菓子かあ、食べてみたいなあ。
少年③ ケイタは食べたことあるの？
ケイタ …あるよ。…今度さあ、みんなで遊ぼうか。
少年① やったー！何する？
少年② サッカーしようよ！アクアも！
少年③ うん！じゃあみんなでサッカーしよう！
(少年①②③、サッカーをする話で盛りあがる)

ナレーション・ケイタ アキ、どうしてオレたちは当たり前前にチョコレートのお菓子が食べられるのに、その原料を作ってるこの子たちは、食べるどころか、見たこともないんだろう？こういうのを「搾取」っていうんだ。金もうけ主義の連中の都合で、人から金や労働力、人間としての尊厳や命までも搾り取っていくんだ。同じこの地球という星に生まれたのに、生まれた場所でこんなにも違う…。何か、やりきれないよ。

シーン⑨ 「ケイタ・サッカー」

《ホストの家の玄関前でソワソワするケイタ》

ケイタ さてと、もうすぐかなあ…。

(舞台そでから現地スタッフに続いて、ボールボランティアがボールの入ったボールかごを持って登場)

現地スタッフ ケイタさん！例の物、届きましたよー。

ボールボランティア こんにちは。

ケイタ こんにちは。ご苦労様です！待ってましたよ！

ボールボランティア それじゃあ、ここにサインをお願いします。

ケイタ お世話になりました。

現地スタッフ それにしてもサッカーボールなんて、ありがたいですねー。

(アクア、舞台そでから走り寄ってくる)

現地スタッフ・ボールボランティア それじゃあ、また。

ケイタ どうも、ありがとうございました。

アクア ケイター、それどうしたの？

ケイタ これはね、日本から送られてきたサッカーボールなんだよ。

アクア　　へえー、本物だあー！

ケイタ　　サッカーボールを送ってアフリカを救おうっていうプロジェクトが日本にあって、それに応募してたんだ。みんな、サッカーしてるけど、サッカーボールがないじゃん。だから、ちょっといいと思って。それが今日届いたってわけ。

アクア　　じゃあこれで、サッカーして遊ぶんだね。

ケイタ　　そうさ。さあ、ボール持って、みんなの所に行こう！

アクア　　うん！

(一旦舞台そでに消えたあと、3人が座り込んでいる所へ登場)

ケイタ　　おーい！

少年①　　あっ、ケイタ！

少年②　　あっ、サッカーボールだ！

ケイタ　　ほら、サッカーボール。

少年③　　本物のサッカーボールだー！

少年①　　すげー！

少年②　　早速やろうよ！

少年③　　うん。けど、ご主人様に見つかるといけないから、ビーチに行ってやろうよ！

少年①②　　そうしよう、そうしよう！

(一旦全員舞台そでに消え、ボールを蹴りながら再登場・波音)

少年③　　ケイター！パス！

ケイタ　　はい、シュート！

アクア　　えいっ！

ケイタ　　やったー！

少年①　　もう一回、もう一回！

少年②　　ケイター！もう一回やろうよ！

少年①　　次は負けないぞー！

(ナレーション中ずっと舞台上でサッカーをする)

ナレーション・ケイタ　　最近になって、日本からサッカーボールが送られてきた。ワールドカップの影響もあって、日本の企業がアフリカにサッカーボールを送るキャンペーンをしてたんだ。ガーナでも、サッカーが一番の人気スポーツ。だから、子どもたちも大喜び。オレも一応、曲がりなりにでもずっとサッカーをやってきててよかったよ。それがこんなところで生きるとは思わなかった。サッカーは、ボール1個で友達になれる、本当にすごい言語だと思う。けど、そのサッカーボールが、ここにはないんだ。だから、丸い物を見つけたり、作ったりしてサッカーしてる。スパイクがないのも当たり前。みんな裸足でやってる。何か、日本でサッカーやってたころ、格好を気にしてたり、値段の高いスパイクの話をしてた自分が、バカバカしく思えるよ。

(ライト、夕陽に変わる)

アクア　　ごほごほ、ごほごほ…。

ケイタ　　大丈夫？

アクア　　(首を横に振る)

ケイタ　　ちょっと疲れたのかな。

少年②　　オレ、おぶってってやろうか？

アクア　　大丈夫。歩ける。

少年③　　じゃあ、送ってってやるよ。

アクア　　ありがとう。

(アクアと少年たち舞台そでに消え、ケイタ舞台に座り込む・波音)

ナレーション・ケイタ　　アキ、この国の子どもたちは、とにかく純粹だよ。あるがままを受け入れて生きている。子どもたちのキラキラした瞳の輝きは、日本が失ってしまったものかもしれない…。確かに貧しいかもしれないけど、人間らしさが感じられる場所なんだ。

(ケイタ、寝転がる)

ナレーション・ケイタ　　サッカーのあと、赤い大地に寝転がると、どこまでも続く水平線から、一本

の飛行機雲が伸びてきたんだ。どこまで飛んでいくんだろう。もしかして、アキのところまで飛んでいくのかなーなんて思ったよ。頬をかすめる、海からの南風が心地よかった。アキと過ごした、徳島でのことを思いだして、胸が苦しくなった。遠く離れて思う。アキ、アキ、会いたいよ。今すぐ、アキのところへ飛んで行きたい。行きたいよ。

シーン⑩ 「ケイタ・命の重さ」

《ホストの家で、ぐったりイスに座るアクア》

アクア母 アクア、アクア？アクア！どうしたの？熱が…。あなた！あなたー！

アクア父 どうしたんだ？

(アクア父に続いてケイタ、アクア妹も登場)

アクア母 アクアの様子が、熱が高くて…。

アクア父 医者だ。医者を呼んでこよう。

ケイタ オレが呼んできます。

(一旦照明消えて、再点灯のあと、医者連れてケイタ登場)

ケイタ お母さん、お医者さん呼んできました。

医者 患者さんは？

アクア母 この子です。

医者 (診察後)…これは…。

アクア父 どうですか？

医者 これはもう、どうにも…。

アクア母 どうにもって？

医者 エイズです。

アクア父 エイズ…？

アクア母 助からないんですか？！

医者 今の医学では…。せめてサポートしてあげるくらいしか…。

ケイタ どうして！？この前まで元気だったんですよ。一緒にサッカーしたりー！遊んだりー！

医者 残念ですが…。

アクア母 どうして？どうしてー！アクアー！あー！

アクア父 アクア…。

ナレーション・ケイタ アキ、命の重さって、生まれたところで違うのかなあ？…オレ、悔しいよ。どうして同じ地球上で、こんなに違うんだらう？こんな小さな子に、いったい何の罪があるっていうんだ…。

アフリカは今も、至る所で内戦が起こってる。争いは、新たな排除や差別を生み、貧しさを生む。そして貧しさが、人の命を奪っていく。争いが直接であろうとなかろうと、人の命を奪っていくんだ。この、果てしない争いの繰り返しは、どこから来るのか。一部の金もうけ主義者が利益を独占することで起こる、それがきつと、戦争の正体なんだ。

あのキレイなダイヤモンドだって、このアフリカの大地で世界のほとんどが採掘されながら、結局はアメリカやヨーロッパ、そして日本に買い取られていく。しかし、それに見合うだけのお金が、アフリカには支払われない。こうやって使っているオレたちのパソコンやケータイに使われているレアメタルも同じことなんだ。アフリカの貴重な資源を、安く手に入れ、それで金儲けをしてる。

日本にとって身近な戦争は過去のものだとしても、遠いところで起きている静かな戦争は、この65年間、ずっと続いてきたんだ。ずっとだ。ずっと続いてて、どこかで人の命を奪ってきてたんだ。どこかで戦争が起こるっていうことは、どこかの大切な人が死んでいくってことなんだよ。

シーン⑪ 「ケイタ・新たなる旅へ」

《部屋でメールチェックするアキ》

ナレーション・ケイタ・(途中から)アキ オレは明日、ガーナと西隣の国、コートジボワールに旅立つ。昔、その国の港からは、アメリカやヨーロッパ、それに日本へと、たくさんの象の牙、

つまり象牙が輸出された。そのため、本当にたくさんのアフリカ象が殺された。だからコートジボワールは別名、象牙海岸共和国ともいわれるんだ。また、多くの黒人を奴隷としてアメリカ大陸に送り込んだ、奴隷船の基地であることでも有名なんだ。

そして今、内戦で少年兵として駆り出された多くの子どもたちが、癒えない傷を抱えたままま過ごしている。そんな子どもたちをこの目で確かめるため、明日、オレは旅立とうと思う。

大昔、人類は、このアフリカの大地から世界へと一歩を踏み出した。その母なる大地、アフリカの危機を、オレは無視できない。平和ボケなんかしてられない。世界からの恵みを受けてきた日本人の一人として、無責任ではられない。そう思うんだ。

アキと出会ってから、オレのなかにある時計は動き始めた。その時計は止まることなく、今までずっと動き続けてきた。そしてこれからも、きっと、ずっと動き続けていく。アキ、オレのこと、ずっと見守ってほしい。好きだ。愛してる。

(アキ、メールチェックを終えて)

ニュースキャスター 「…ニュース速報です。ニュース速報です。本日未明、アフリカ西部にあるコートジボワールで発生した内戦に日本人が巻き込まれ、重体となっている模様です。重体となっている日本人は、埼玉県の澤口ケイタさん21歳、埼玉県の澤口ケイタさん21歳。詳しい模様はまだ分かっておりません。また詳しい情報が入り次第、…」

アキ (立ちあがったまま)ケイタ！ケイター！！

(エンディングVTR「supernova」)

(終了後、国際電話の呼び出し音)

ナレーション・ケイタ アキ、アキ？オレ！ケイタ！オレ、生きてるから。ちゃんと生きてるから！

終了後BGM 必要なフロアスタッフ以外全員ステージへ

フロアスタッフの名前を全員紹介した後、代表者が舞台挨拶をし、最後に全員手をつなぎ、つないだまま上げ、下ろして礼(閉幕)